

今夏も記録的な猛暑で、特に関東地方は水不足でした。ダムの水位が下がり続け、取水制限もされました。(今現在、まだ解消されていないのでは)

かつては水道の蛇口から一滴の水も出てこなかったため、水の確保に大わらわだった時があったことが思い出されます。

さて、予想されている多摩地域地震(今後30年以内の発生確率70%、マグニチュード7.3)が発生して、ライフラインが止まると真っ先に困るのが水です。特に飲み水がないと人間は生きていけません。食料はもちろん大事ですが、食料の不足よりも水不足の方が深刻です。ご家庭ではペットボトルやポリタンクなどに水を備蓄されていると思いますが、一体何日間持ちこたえられるでしょうか。

町田市の広報などによると3日間程度各家庭で備えておいてほしいということです。その後は市が給水活動を行うということです。具体的な方策は今後検討するようです。

つくし野地区では、セントラルパークが給水拠点となっていて、災害時にはセントラルパーク地下の貯水槽から給水できるようになっています。

ただ、平常時にはセントラルパークまでそれ程遠いという印象はありませんが、災害が発生して道路が寸断され自動車が通行できなくなったりすると、重い水をどう運ぶのかが大きな課題となります。

東日本大震災で被災した方々の体験でも水を確保し運搬するのに大変な苦勞をされたと聞いています。

特に、高齢者の方が中心のご家庭では水の確保が大きな問題になると思われます。

災害に備える意味でも日ごろから隣近所のお付き合いが大切です。気軽に「水をください」といえる関係をつくっておきたいものです。

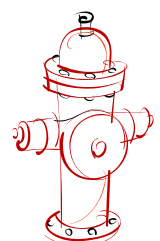
自主防災隊 副本部長 西野 潔

☆8/25(日)つくし野セントラルパークにて“町田市総合防災訓練”が行われました



震災対策用応急給水施設

応急給水施設及びスタンドパイプを使用した消火栓からの応急給水訓練でした



7月28日町田市防災講習会の給食給水班を受講して得た情報をお知らせします。

●講習では過去の災害を振り返りました。

東日本大震災時、マグニチュード9、震度7（町田市は震度5でした）

●町田市周辺の活断層に及ぼした影響について見直しがされ、政府の地震調査研究推進本部は30年以内に町田市で震度6強の発生確率が高くなっていると発表しました。

●町田市の地震被害による想定避難者は30,000人でした。平成24年に想定避難者数を93,000人に改め、水や食糧の備蓄も補充をすすめています。

★自治体の備蓄品は、避難者の方々に優先して使われる事を知りました。

★避難者以外の方々は、各家庭の備蓄（自助努力）と、地域の方々との助け合い（共助）で対応しなければならない事を再認識しました。

《つくし野 1,2 丁目の皆様》

電気、ガス、水道が止まった時にしのげる家族分の食糧と飲料水の備蓄が出来ているか確認しましょう。

6月防災訓練で紹介したトイレ対策の備蓄品（トイレトーパー・ビニール袋）などもご確認ください。

●ろ水機の取り扱い説明を受けました。

ろ水機は学校等の避難施設に用意されています。

プールの水、汲置きの水の細菌を除去して生活用水にする機械でした。

運転する為のガソリンや試薬が必要です。

自治会から要望すれば、扱いかたの講習をさせていただきます。



●炊き出しが必要な時の参考に（炊飯袋）の見本を貰いました。

米1合と水を入れ、沸騰した湯で30分煮て、ご飯が炊けます。

10×30センチのポリプロピレンの袋です。

生活用水が足りず、洗い物が出来ない状況では

有ると便利かなと思います。

今後、実際に試して皆様に報告したいと考えています。

これからも講習会に出たり、体験談をお聞きすることを通して

地域の皆様に発信してまいります。

